



日本プライマリ・ケア連合学会
近畿ブロック支部



発行人：雨森 正記

事務局 〒550-0001 大阪府大阪市西区
土佐堀1-4-8 日栄ビル703A
あゆみコーポレーション内
Tel.06-6441-4918 Fax.06-6441-2055
E-mail jpca@a-youme.jp
HP <http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/index.html>

ニュースレター No.40 (2023.6)

特集1：近畿の話題（今回は奈良、和歌山からです）

ドキュメンタリー映画「明日香に生きる」から考える“いのちのバトン”

武田 以知郎（明日香村国民健康保険診療所／高市郡明日香村）

ドキュメンタリー映画「明日香に生きる」が今年の2月から地元での上映が始まり、これからは全国に展開していく予定です。この映画は、いのちのシリーズを描く溝淵雅幸監督によって、私の勤務する奈良県明日香村での日常診療や四季の風景をリアルにかつ美しく描いています。



明日香村はご存知の方も多いと思いますが、のどかな農村風景の奥に、かつて日本の都として栄え、大化の改新など歴史の舞台ともなった日本人の心の故郷ともいえる地域で、各大字には様々な言い伝えや風習も残っています。その地に導かれ、十数年前に診療所に赴任しましたが、当時の子供たちは青年に、元気だった高齢者が旅立つ姿に時の流れを感じ、いくつもの“いのちのバトン”が受け継がれていくのを見てきました。明日香村の歴史から考えると、私の居る十数年は僅かかもしれませんが、その間も医学は進歩し、私の子供時代に描いたお医者さんとはずいぶん違う医療を担うことになってしまいました。しかし、いのちのバトンだけは変わらずに受け継がれています。

その昔、医師と看護師と産婆さんだけだった地域医療は、今や多くの制度と多くの職種に支えられ、多様な選択肢が用意されています。そして医療自体も臓器別、専門細分化から改めて総合診療やかかりつけ医など、多様性に寄り添える医療の必要性が謳われるようになりました。明日香村には高度な医療はありませんが、村民のいのち

に寄り添い、総合性を持ちながら身近で優しい医療を提供できる、昔ながらの“お医者さん”を目指しています。

今回溝淵監督と意気投合し、明日香を撮っていただけることになりましたが、正直在宅医療や総合医療の分野では特に秀でたものではなく、今やごく普通の地域医療の姿と思っています。ドキュメンタリー映画のため、余計なうんちくは一切語れなかったのですが、大切なことは観る人の心の中に自然と伝わってくれるものと期待しています。医療的にみる見方や、明日香を深く知る、生きざまに寄り添うなど様々な視点で見ることができると思います。

<https://www.inochi-hospice.com/asuka/>



奈良医大総合診療科を築いてきて思うこと

西尾 健治（奈良県立医科大学総合医療学教室前教授／宇陀市立病院／宇陀市）

私はこの3月31日奈良医大の総合診療科を退任した。12年前に1人ではじめ1年間はたった一人だった総診も、今年の入局者で39名となった。家庭医療専門医取得後、糖尿病や疫学など専門性を選んだ5名以外、居心地がいいのか、有名ではない奈良医大の総診にそのまま残ってくれている。当初は病棟もなく、将来どのようになっていくか、現在もわからない総合診療科を選んでくれた仲間には非常に感謝しているし、家族のように接することができたので、医局員のために働くことは気持ちの面では全く苦痛ではなく、嬉しく楽しい事であったと、感じている。

皆さんにはほとんど知られてないので、自己紹介すると、私は、昭和57年自治医大を卒業して、2年間2回、併せて4年間、天川村診療所に勤務、その後も飛び飛びではあるが、村での診療を週に1回現在も続けており、25年を超えるようになった。また、その間を振り返ると専門医資格としてはリウマチ専門医、小児科専門医、救急科専門医、認定医としてはプライマリ・ケア、病院総合、内科、血栓止血などを取得し、インストラクターとしてはJATEC、PALS、DMAT、ADLS、ISLSなどを有し、奈良医大の救急医療体制、コロナ診療体制、災害医療体制、在宅医療支援体制などを、ほとんど一人で作ってきた。

私はこのようにいろんな診療の場所や領域で働いてきて、12年前、たった一人で総合診療科を築くことになったので、一人でも多くの総合診療医を育成することを目標に頑張ってきた。

時に、様々な障壁を感じてきたが、以下はその一部である。巷には総合診療ネガティブキャンペーンがあふれ、それらに対する回答は自分の中ではある程度固まってきたが、全国的にみても、まだまだ完全とはいえない。だからこそ、どのように対処し、どのように若手を導いていくかは、これからの総合診療の発展と、個々の育成において、かなり重要な視点になるのではないかと思ひ、自分の考えを書き連ねてみる。

その一つは、「家庭医、総合診療医は大学では育成出来ないの、地域に出ないと！」という身内からの言葉である。もちろん大学だけで育成できないのは当然で、だからこそ、それぞれの専門医プログラムにも地域での研修があるわけである。他にも、「これは本当の家庭医ではない」とか、総合診療領域の中で、診療場所の違いから生じる差異を指摘しあう傾向がみられるのは、いつも不思議だった。臓器別専門医同士では、互いに臨床の場所や領域が異なった場合でも否定しあわないと思う。また、「総合なんてカメラとか出来るようになってから地域に出てやった方がいいよ」という、臓器別専門医からの言葉も大きな障壁であった。これらの言葉にめげず、総合診療医を今以上に増やしていくには、どの医学生も通る大学の中でこそ、プライマリ・ケア（総合診療）を盛り上げていくことが必要で、大学内のイメージが良くなれば、総合診療を選択する者も大学内外問わず増えて、いずれ地域にも総合診療医があふれ出すだろうと、ずっと思ってきた。総合診療医を目指すものはすべて各大学を經由して地域に出ていくようになった方が、最終的には総合診療医の数が増えると思っているし、大学を拠点として地域全体の医療の発展をめざすことが出来ると信じて、退任後は医局員と共に、医師不足の地域の病院で訪問診療なども行っている。

大学の総合診療科としては、総合診療専門医を増やすためには、何をすべきだろうか？①地域のみならず多数の臓器別専門医がいる大学の医療においても、患者の全体を把握する総合診療医は必要であると、実症例の積み重ねで示していくこと、②総合診療医にしかできない診療があり、それは奥深く一生追求できるものであることを示すこと、③そしてその診療が大学で当初より学ばないと身に付きにくいものであることを示すこと、④患者中心の医療や多職種連携などはめざすものではなく、当然のものとして捉えることなどが重要と考えている。これらを胸に秘め頑張ってきたが、実際、最近では他科の医師からも研修医からも一目置かれるようになってきているし、“The 医者”ですと言われることも多くなってきた。さらに頑張れば認知されていけば、より多くの人々が自由に大学の総合診療を選べるようになるし、同時に地域の総合診療プログラムも選びやすくなると信じている。

大学での研修後でも地域で総合診療医として十分に働けるのだろうか？現在、私は地域の病院で、大学で育った総合診療専門医の在宅医療などを一緒に行いながら身近で見守っているが、どの総合診療医も本当に素晴らしいと感じている。ずっと地域で在宅医療をやっている先生方からも、奈良医大の総診の先生方の在宅医療を非難する声を聞いたことがないとも言ってもらえている。これは、大学の総診で習得した技術や経験は地域でも十分通じるということに他ならず、今後も多職種にもまれながら理想的な総合診療医を目指してほしいと考えている。

とはいっても、臓器別専門医の経験を経て地域で総合診療を実践されている方々がダメだと言っているのではないのだが、分かっていたらどうか。臓器別専門医の先生に出来て総合診療医に出来ないことがあるのと同じように、総合診療医に出来て地域に出ておられる臓器別専門医の先生に出来ないことも多くあるということは理解して欲しいと思っている。

これらの意見に苛立たれる方、その通りと思われる方、極端な意見と思われる方、いろいろだと思うが、いつもは議論もされずに流されていくこのような意見もあると、知っていただきたく、思いつくまま書かせていただいた。これからも、総合診療の幅広い発展を願っている。



最終講義のあとで

山東省（中華人民共和国）出身看護師と共に働くことができ

竹井 陽（白浜はまゆう病院・国保直営川添診療所／西牟婁郡白浜町）

みなさん、去る 2022 年が日中国交正常化から 50 年にあたったことをご存知でしょうか？この 50 年間、日中関係はもちろん、両国内の情勢は大きく変化し、今も変化し続けています。私は当財団で山間僻地の川添診療所で週 1-2 回勤務しながら、白浜はまゆう病院という 200 床程度の 2 次救急+地域包括・回復期リハビリ・医療療養・介護医療院併設病院で入院患者主治医をもちながら勤務をしております。その中でひとりの優秀な山東省出身看護師とコロナ禍の 4 年間に一緒に働くことができましたので、その経験（思い出）を皆さんに伝えたいと思います。

当院には私が赴任した 2018 年から常時 2 名程度の山東省出身看護師が勤務しておられ、その誘致には病院幹部が実際に山東省の看護大学に赴いて尽力されたと伺っております。私が勤務を開始したときにおられた 2 名の看護師も獅子奮迅の働きを急性期病棟・回復期病棟でそれぞれみせてくれておりました。私が赴任してしばらくして、紀子さん（彼女の名前を日本風にしました）は、まだ日本の看護師国家試験を合格する前の段階で、病院実習にきてくれました。あまりに一生懸命がんばってくれているので、当院にぜひきてほしいという思いから地下の売店でお菓子を買ってきて渡したのを覚えています。服装は黒いシャツをきていましたが、今思えば中国の人は黒い衣服を普段着用することはあまりないそうです。彼女なりに職場に気を遣って衣服を選んでくれていたのだと思います。

1 年後、彼女は日本の国家試験を見事に一回で合格して、当院に就職してくださいました。そのときに白衣で病棟に現れた時の輝かしさがまぶしかったのを、今でも昨日のように覚えています。彼女ら・彼らは中国の看護大学を卒業して、新卒で日本に渡って日本語検定と日本の看護師国家試験をパスして当院に就職してきてくれているとのことでした。当院に実習にきてくれていた中国からの留学生は私がきてからは全員が日本の看護師国家試験に合格しています。それは彼女ら・彼らが中華圏で漢字が母国語であるという点もありますが、彼女ら・彼らの出身の山東省が受験大国で、日本ではとても考えられないような受験戦争を生き抜いてきたその優秀さの賜物と考えます。

さて、紀子さんとの急性期病棟での臨床が始まりました。彼女は日本語が流暢ですが、やはり限界はあるので、その点は病棟スタッフも医師も（少なくとも私は）配慮しながら、仕事をすすめていきました。日常の病棟業務からエンジェルケアの仕方（中国と日本で化粧の仕方も違います）にいたるまで、彼女の背負った文化の壁は大きかったです。しかし、患者さんたちからは退院すると口々に「あの中国の看護師さんにお世話になった」と言っていたのを覚えています。それを彼女に話すと、彼女が退院後も患者名を全て覚えていたのに驚かされました。日本と中国は文化の壁があります。例えば彼女らは温かいものしか食べません、冷たいお弁当は食べたくないのです。そういった点はヤンチャン Ch という YouTube で日中の文化の違いを解説してくれています。紙面が足りませんので全て

を記載するわけにはいきませんので、ぜひ参照ください。

ついに別れの日がやってきました。送別会には異例の大人数が参加し、口々に彼女への感謝の気持ちと思い出を述べてくれていたことに、彼女の残した大きな功績を感じることができました。彼女たちは結婚に関しても多くの文化の違いを抱えています。詳細は語れませんが、日本民族と漢民族の間には見た目とは裏腹に大河が流れているのだなと近づけば近づくほど感じるようになると思います。山東省と和歌山県は姉妹協定で結ばれています。経済規模中国2位の省と和歌山県が提携しているのは今では身に余る光栄としかいいようがないと思います。そして儒教文化に支えられた本当に生真面目な文化背景をもった彼女ら・彼らに心から敬意を表します。今、日本は経済規模では中国の1/2以下です。今後もその差が広がることはあれ、狭まることはないだろうと考えます。そして医療従事者である自分達にはそれはどうすることもできないことです。

失われた30年で経済成長はしませんでした。日本のプライマリ・ケア領域での医療介護は着実な進歩を遂げてきたことは皆さんがご存知の通りです。私は彼女に介護分野での看護学の教科書を、アンダーライン入りでプレゼントさせていただきました。彼女は中国に帰ったら中国ではまだこれからの分野である介護保健施設で勤務したいと言っていたからです。かつて日本が経済規模で世界を席巻していた時代にも、欧州諸国はそれを横目に決してその輝きと誇りを失わなかったことを自分は覚えています。昨今、円安が進行し中国と日本の賃金格差は狭まるばかりです。私達にはプライマリ・ケア領域の医療を支えるプロフェッショナルとして、彼女ら彼らに貴重な青春の時間を日本で過ごしてくれたことを後悔させないための努力が今強く求められていると考えます。



著者と。紀子さん離陸の日に撮影。
紀子さんへの感謝をこめて。

特集2：近畿地方会、初の試み

川島 篤志（第36回近畿地方会実行委員長／福知山市民病院）

2023年春のJPCA学術総会@名古屋に参加された方はどれくらいおられますか？会場は色んな意味で圧巻でしたね。こんな雰囲気学術大会会場ってあるんだ…と感心しました。会場だけでなく教育講演やシンポジウムなど、勉強になる内容も盛りだくさんでしたよね。ハイブリッド開催としての、後日のオンデマンドもほぼアップされているので、「また後で…あっ、終わった」にならないように皆さま、チェック下さいね。

皆さまは今までJPCA近畿地方会に参加されたことはありますか？毎年、都府県持ち回りで開催されています。コロナ禍でも盛大な、とても教育的な学術大会が行われました。しかしながら、学術大会開催の負担は大きいものです（過去に関わられてた先生は同意いただけますか？）

それで近畿ブロック幹事会で、2年に1回は負担軽減を目指すことはできないか？となり、2023年度はJPCA近畿としては初めて、府県持ち回りの地方会開催ではなく幹事会主管とすることにしました。極力シンプルに、かつ専攻医に「発表の場を提供する」というコンセプトのもと、オンラインのみとして、11月26日【日】に開催を決定しました。これから夏期セミナー・秋季セミナーと続きますが、是非、秋の地方会の日程チェックに加えて、専攻医への発表の促しを、是非忘れずに行っていただければと思います。

演題募集開始は7月上旬、そしてメ切は8月末になります。Off the Job Trainingの教育セッションやoViceというヴァーチャル会議室での交流も検討しているので、専攻医・指導医の方には貴重な機会になることは間違いないと

思います。発表は専攻医の先生だけでなく、多くの先生方やメディカル・ケアスタッフの方も大歓迎です。質疑応答や意見交換時間もシッカリ取りたいと思っています。

さて、開催概要ですが、大会長に大島 民旗先生、実行委員長に川島と稲岡 雄太先生として、既に地方会 HP も作成されています：<https://sites.google.com/view/pckinki36/> (大会長からのコメントも掲載されています)。テーマは、「気軽に語る 総合診療×日頃の疑問×PC リサーチ」となると、覗いてみたくなりませんか？

JPCA 近畿ブロック ML と (今や使う世代が限られている?) Facebook にも発信しています。もし ML に参加されていないとか FB 見たことないとかでしたら、ちょっとチェックといいね！をお願いします！

負担軽減といえども、運営側の負担はゼロではありません。成功裏に終わるためには、皆さまのご協力、すなわち発表へのエントリーと発表を見守る = 参加が大事になってきます。

2年に1回の発表を主体とした地方会開催。初の試みになりますが、是非、皆さまと一緒に創りあげることができまよう、ご協力を宜しくお願い致します。

報告：JPCA 近畿ブロック Start-UP 企画 (オリエンテーション) 2023 開催

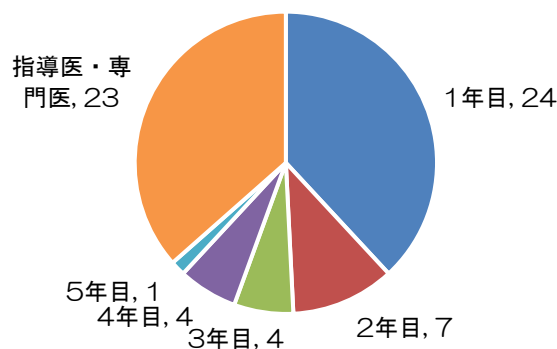
水谷 直也 (公立宍粟 [しそ] 総合病院 / 兵庫県宍粟市)

4月15日(土)に、今年度のオリエンテーションがZoom®開催されました。近畿2府4県から計63名の参加登録がありました。そのうち指導医・専門医が23名で、日本専門医機構の総合診療専門研修プログラムで研修を開始したばかりの1年目専攻医と、ほぼ同数となる状況でした(下図)。

当日はのべ52名がZoom®に入室し、雨森 正記支部長、草場 鉄周理事長ご両名からの「世界標準の総合診療・家庭医療の担い手に」との号令を皮切りに、2時間半で、下記の講演・動画コンテンツを共有しました。

最初に、年度末の定例行事 P-FES (第15回近畿家庭医療・総合診療専攻医ポートフォリオ発表会：2023年2月)

Start-UP企画 参加登録者 (人)



で最優秀賞に輝いた藤村 周平先生 (南奈良総合医療センター 総合診療科) から「研修のゴールとサバイバルスキル」と題して、専門研修を進めていくためのコツや工夫、注意点をお話いただきました。研修の成果物であるポートフォリオを作成する目的や方法については、大竹 要生先生 (滋賀家庭医療学センター) にレクチャーしていただきまし

た。また研修手帳である Fami-Log の取り扱いについては、横谷 省治先生（専門医研修プログラム運営・FD 委員会委員長）による説明動画を閲覧しました。

専攻医を支援する仕組みも、紹介がありました。田中 いつみ先生（滋賀家庭医療学センター 家庭医療学後期研修プログラム）からは JPCA 専攻医部会について、また稲岡 雄太先生（兵庫県支部 副支部長／おひさまクリニック）からは、近畿ブロック独自の取り組みとして、oVice®を用いたバーチャル医局 HOME-base と、研修支援パスポート KONPass について、それぞれ情報提供いただきました。

講義の合間には、ブレイクアウトルームに分かれて small group discussion を 2 回（各 20 分）実施し、研修の目標や疑問を共有しました。全日程終了に向けては長谷部 仁美先生（葛西医院）から oVice®の使用法をご説明いただいた後、バーチャル医局 HOME-base に場を移し、交流会を開きました。

専攻医と専門医・指導医が共創する、近畿ブロックの 2023 年度の取り組みが発進しました。一人ではたどり着かない景色を、仲間と共に一。読者の皆さまにおかれましては、近畿のプライマリ・ケアを育てていくためのお支えを、引き続き賜れますと幸いです。



代議員選挙イヤー（year）について

2023 年は、代議員選挙があります。近畿ブロックからも学会活動にコミットメントしていただける代議員の方がたくさんいてくだされば、近畿ブロックの活動は、ますます盛んになっていくと思われま。代議員選挙に立候補される会員の方が増えることを祈りまして、現在代議員の先生方から、代議員の魅力について語ってもらうコーナーを設けています。

やっぱりプライマリ・ケアは素晴らしい！

辻本 千代美（福知会もみじヶ丘病院／福知山市）

私は薬剤師ですが、地域のプライマリ・ケア医のご厚意により月に 1 回ポートフォリオの勉強会に参加させてもらっています。医師と薬剤師のポートフォリオは少し異なりますが、自己能力を高めていくという基本は同じです。ここでは、事例を学びながら個々の患者に寄り添い、幅広く捉える全人的な医療は素晴らしいと毎回思うのです。

あるとき一人の女性医師が、“プライマリ・ケアの繋がり”について教授して下さいました。「個人では助けられないことでも、多職種集まるとすごい力になる。」と。

このような多職種で学ぶ会をもっと拡げていきたい！！

代議員になって共に学び共に成長できる場を作っていきますか！！

その他

●近畿ブロックのレジェンドたちのライフヒストリー&感動秘話

- # 1 石丸裕康 先生
- # 2 木戸友幸 先生
- # 3 中山(畔田)明子 先生
- # 4 雨森正記 先生
- # 5 鈴木富雄 先生
- # 6 松井善典 先生
- # 7 竹中裕昭 先生
- # 8 三澤美和 先生
- # 9 専門研修をはじめたばかりの3人の専攻医



<https://podcasts.apple.com/gb/podcast/legend-of-gp-in-kpca/id1583573369>

をゲストに迎え、順調にポッドキャスト収録が進んでいます。ぜひ一度お聞きください。

●近畿ブロックの研修ブラッシュアッププロジェクト ~up to the 3rd power~

近畿ブロック専攻医のための研修パスポート「KONPass」も Peatix で販売中です。

これは、春のオリエンテーション、秋のブラッシュアップセミナー、冬のポートフォリオ発表会、といった3大イベントへの参加に加えて、日々の外来振り返りや、オンライン指導医とメンタリングも、バーチャル医局を用いて、回数制限なくできてしまう、近畿専攻医だけの特別なパスポートです。(年会費 3000 円)

ぜひ専攻医の皆様はこちらをフォローして、チケットの購入をお願いします。

<https://ut3p2023.peatix.com/view>

そして、指導医の皆様も、ぜひフォローをお願いいたします。(指導医の皆様はチケットを購入しないでくださいね。)

●ドクター体験プロジェクト 2023 始動！

近畿にある医学部、大学の低学年向けにプライマリ・ケアの現場に飛び込んでもらう「ドクター体験プロジェクト 2023」が始動しました。

右のパンフレットは、去年のプロジェクトに参加してくれて、今年はタスクフォースと関わってくれる医学生が作ってくれたものです。

このプロジェクトに関わってくれる医療機関は 6 月 20 日現在、以下の URL にある 31 施設となっております。いつも皆様のプライマリ・ケア教育への熱意にただただ感服しております。今年もどうぞよろしくお願いたします。



https://docs.google.com/spreadsheets/d/1Cu3bmFOIU00kNi96qizodwbRu_zB7yOvjghGtaZIKJM/edit#gid=1836933516

ニュースレター編集委員大募集！！

朝倉 健太郎 (大福診療所/桜井市)

近畿ブロック ニュースレター編集部では、近畿ブロック支部や各府県支部の取り組み、会員のみなさまの近況などを中心に編集作業に取り組んできました。

3ヶ月毎、年4回の発行を行っており、本誌2023年夏号は40号にあたります。

引き続き、様々な立場、役割を担っている会員のみなさまの活動を幅広く取り上げていくことができると考えております。

ニュースレターの編集にご興味のある方、一緒に面白い記事を作成してみようかなと思った方は、編集部 kentaroasakura@gmail.com 朝倉 までご一報下さい..

[支部からのご連絡] **ブロック支部活動について皆様からのご意見やご提案をお待ちしております！**

近畿ブロック支部・各府県支部・公認グループ活動のホームページが更新されました！

<http://www.primary-care.or.jp/primarycare-kinki/> 是非、アクセスしてみてください。

(学会トップページ <http://www.primary-care.or.jp> 上部メニュー「講演会・支部活動」から)

→ 詳細は、上記ホームページをご参照願います。

ホームページ担当：梶原信之